

水俣に身障者収容施設

市が建設決定

年度中にも実現へ

水俣病
患者など
規模百床、授産設備も

水俣市は水俣病を中心とした重度心身障害児(者)、身体障害者の収容施設と授産施設を建設する態度を決めた。

国のコロニー待たずに

当初、国立のコロニーを建設するよう国に強く働きかけていたが国の態勢が整わなかった。しかし水俣病問題は早急な対策が迫られていることから、コロニー建設を待たずに収容施設、授産施設の建設を決意したもので、すでに建設意向を寺本知事に伝え、県は国に対し、援助方を強く働きかけることで一致をみていると浮池市長は語っている。

計画によると、重度心身障害児(者)収容が五十床、身体障害者授産施設が五十床で、計百床の規模。治療を受けながら仕事をする施設で、水俣病患者、その他交通事故などにより、湯の尻リハビリテーションに収容されている患者を収容する。

当初、国立のコロニーを建設する市西湯の尻の海岸沿い。この施設と、リハビリを含めて、一帯をコロニー的性格の地帯にする構想。土地について浮池市長は、さきの水俣病補償処理委員会が、患者救済でナツソの協力を求める要望事項をつけているなどから、その協力を求めたいといっている。

組織は福祉法人とし、建設費は半分が国、残り半分を県と市が負担する。建設費などについては今後具体的に検討することになっている。本年度中にも建設したい意向。

場所は湯の尻リハビリに近い同